



総合教育センターを訪れ、タブレットなどICT技術を使った最先端の授業のつくり方を学ぶ



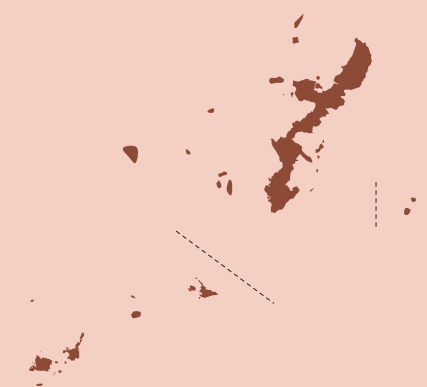
沖縄県の教員との意見交換会。「離島での勤務に抵抗はないか」との質問に「離島は少人数制のため、教えるスキルを磨く良い経験になる」との答えが返ってきた

遠隔地にも

公平な教育を

約160もの離島を持つ沖縄県では、
どの島でも平等に質の高い教育を受けられるよう、
地域ぐるみで取り組みを進めてきた。
そのノウハウを学びに、開発途上国から研修員が訪れている。

沖縄県



沖縄県

面積約2,276km²。人口約142万人。
かつては琉球王国として中国や東南
アジア地域との貿易で栄えた歴史を
持ち、世界に開かれた国際交流拠点
を目指している。太平洋戦争からの復
興の経験の基にした平和教育も盛
ん。JICA沖縄国際センターでは、こ
うした沖縄の強みを生かした研修を
実施し、開発途上国の研修員を受け入
れている。



池間小中学校で中学生の英語の授業を視察。一人一人自己紹介をしながら交流した研修員たち

ゼロから立ち上がった 沖縄の経験を知る

真っ青な空、底まで見える透き通つた海に、思わず歓声が上がります。沖縄県の中でも、ひとときわ海が美しいといわれる宮古諸島。本島を含め、池間島や伊良部島など、8つの島で成り立っている。

今では橋でつながっている島もあるが、かつての移動手段は船。沖縄県は離島が多いため、いかに公的サービスを行き渡らせるかに苦心してきた。その一つが教育だ。

開発途上国も似た課題を抱えており、これは島国に限ったことではない。都市部に比べ、地方部では学校施設や教員の数が不足し、教育を受けられない子どもも多いなど、地域格差が広がっているからだ。そこで、アフガニスタン、インド、ネパール、バキスタン、ウズベキスタン、イエメン、モロッコから来日したのが、教育分野の行政官たち。元沖縄県教育長の山内彰さんから戦後の教育復興の歩みについて、沖縄県教育庁や総合教育センターの職員などから教育委員会制度や予算の仕組み、ICT教育などについて学んできた。

そしてこの日は宮古諸島に渡り、池間島にある唯一の学校、池間小中学校へ。日本の遠隔地での教育現場を視察するためだ。全校生徒は42人。校舎やプールといった施設を回り、児童数が少ないため複数の学年が合同で算数を学ぶ授業などを見学した。

してくれた交流会で、けん玉や紙風船、花いちもんめなど、伝統的な日本の遊びを体験した。「いろいろな国の言葉で、ありがとう」を教えてもらい、海外のことを知る良い経験になりました！と子どもたちもとびきりの笑顔を見せてくれた。沖縄の人々にとって、途上国の研修員との出会いが世界を知り、国際感覚を磨くきっかけになっている。

覚えてばかりのパシュトゥン語「マナナ！（ありがとう）」を言いながら見送ってくれた彼らに手を振り、「一生忘れられない思い出になった」と話す研修員たち。沖縄の教育の仕組みを参考に、各国の事情に合わせて教育の質を改善するヒントをきくと得られたはずだ。



戦禍により校舎が足りないため、青空教室で子どもたちが学んでいた1945年の沖縄（写真提供：沖縄県公文書館）



1992年に完成した宮古島と池間島を結ぶ池間大橋。美しい海が広がる